

伊藤新道

伊藤新道復活プロジェクト第1, 2吊り橋完成後

2022年10月08, 09日

参加者：桐林 (記)、草田



出合の水俣川を渡渉

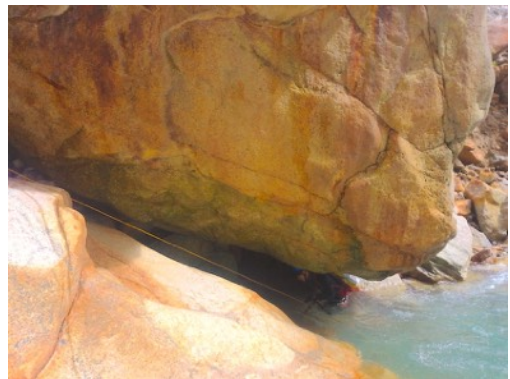
湯俣から北鎌、キレット、そして徳本峠を越えて島々へ、というクラシックルートを草田さんから提案された。5連休にしたが、日付が近づくほど天気が悪い。しかも、雪予報。10月の微妙な移ろいに北鎌でやられてはと、中止になった。どうにか山へ！と駆り立てられ、同じ入山口の伊藤新道をゆくことにした。

浜松を2時に出発。七倉山荘に20台弱の駐車があった。タクシー待ちも無く、出発。7時過ぎに高瀬ダムから歩き出した。16時までには三俣山荘に着きたいと、最初から飛ばす。2時間が過ぎ、晴嵐荘付近でガイドツアーらしき男女6人と会う。湯俣と水俣の出合で、沢装備に替えた。まずは景気付けに、水俣川を吊り橋を使わず渡渉。股と同じ水位だった。夏の時期と変わらず、水量は多い方ではないかと思う。

噴泉塔を間近に見ようと左岸に。「草間彌生のオブジェ」と草田氏が言う。そのまま歩いていると、街中でもないピンク色をした岩石があった。異景だ。第1吊り橋前でツアー組を抜き、ガンダム岩に。あれ、濡れるぞ！と思うまま胸下水没。ロープが無くても引き剥がされることはない。その後は単調に進んだ。

伊藤新道開通当時は第3吊り橋の、新調された第2吊り橋。無くても左岸側を壁際通れば、可能に見えた。増水を思っただけか5m高さを持って架橋されていた。これであれば、流されることはまず無さそう。南に伸びる沢の出合付近で休憩。湯俣川の岩壁は威圧感がすごく、不快でもヘルメットを付けていたくなる。

ワリモ沢を越したところで山荘関係者と思しき男女4人組と出会う。その後正規の伊藤新道を行き過ぎ、資材が置かれ



ガンダム岩をくぐる



高い第2吊り橋

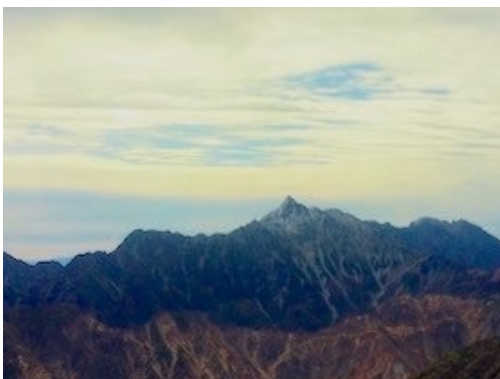
ていた尾根の裏から緩いルンゼ状を登った。13時手前。わかりずらいが上部の岩にマークがあった。この尾根を登っていくと景色が開け、硫黄岳の尾根の異様さと植物の色のコントラストに気が楽になった。赤沢への渡渉は問題なかった。尾根へのポイントが不自然でわかりにくい。赤沢を上がっていくとマークがあり、よく作ったと感心する急登をひたすら上がった。

ここからは時折景色が見えるものの、標高を上げるのに苦労した。展望台や庭園があるにはあるが、伊藤新道の醍醐味は、湯俣からの景色を味わうことだと思う。鷲羽岳へと続く尾根を見送り、山荘

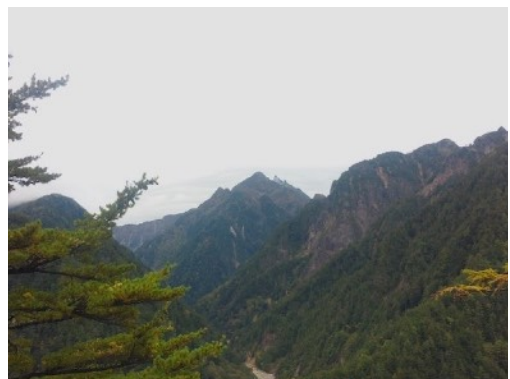
から綺麗に見えるトラバース。雲の中から槍の穂先が見えた。16時前になんとか到着。奥のテン場に住まいを決めた。今シーズン慣れていない寒さで手がかじかみながら設営。冬が近づいてきた。

朝4時半起床。6時過ぎに出発。晴れ。山荘の水が凍ったのか、トイレの水が出てこなかった。これから竹村新道と思うと少し憂鬱。鷲羽岳への400mの登りで寒さはすぐどこかへ消えていった。10時手前、竹村新道への分岐にやっと着いたと思うほど疲れていた。ここまでの稜線上では2パーティとすれ違った。北鎌尾根と硫黄尾根を広く縁取れるのはここならでは。天気が悪いと苦労しそうだ。

竹村新道は晴嵐荘まで標高差1400mある。疲労が溜まっているところに追い討ちをかけてきた。13時半、晴嵐荘に到着。明日の天気が悪いためか、人気がなかった。15時半までにタクシーを呼ばないと乗れないと聞いていたため、早足モードで歩く。曇天だなあと思う東の間、雨が降り出した。15時半、最後のトンネルを抜けた。タクシーが待っていたおかげで待つことなく七倉へ。心地良い疲労感に包まれながら、雨で濡れた体を温めた。22時ごろ帰浜。



連休前を襲った寒波の積雪



竹村新道展望台から北鎌尾根